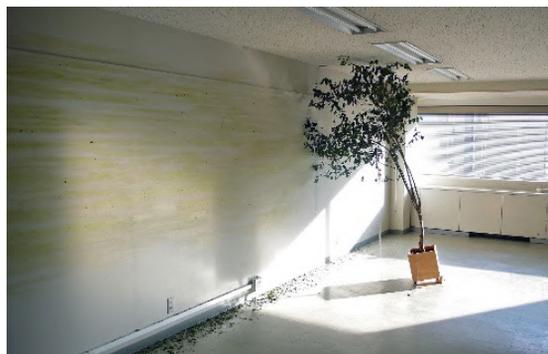


報道関係者各位

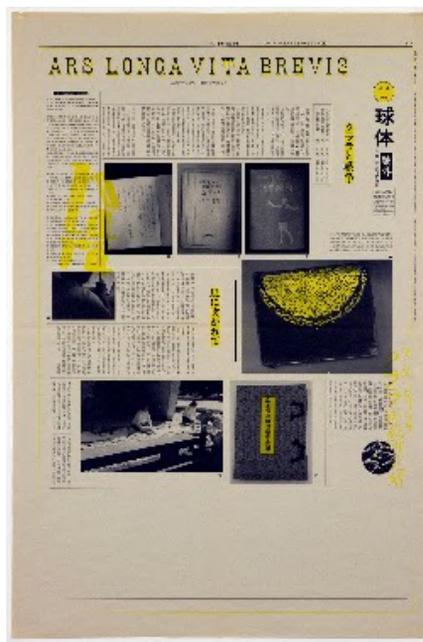
高架下で出会う新たな体験 東東京エリア3箇所の高架下施設でアート作品を展開



《植物の鼓動》2012、旧東京電機大学（東京）



《青海三丁目 地先の肖像》 青海三丁目地先の地図 S=1:1000、2020



《球体 9/ 球体 9》2014

一般社団法人東京ビエンナーレと株式会社ジェイアール東日本都市開発は、2021年7月10日（土）～9月5日（日）に「東京ビエンナーレ 2020/2021」が開催されるにあたり、3箇所の高架下施設にて参加アーティストによる作品を発表いたします。

株式会社ジェイアール東日本都市開発は「未来の東京を高架下から面白くする」という想いのもと、高架下を起点としたくらしづくり・まちづくり事業に取り組んでいます。

一般社団法人東京ビエンナーレはまちのあちこちで作品発表を通じて、まちに宿る文化資源を丁寧に感じ取り、歴史的にも文化的にも大変多彩な表情を持つ場所の可能性を引き出す、社会実験の場を創造しています。今回の東京ビエンナーレ2020/2021のテーマである「見なれぬ景色へ」は、すでに存在している都市の街並みに仕掛けを突き付けて変化を起こし、市民レベルの「新たな体験の共有」へのチャレンジであることに由来しています。

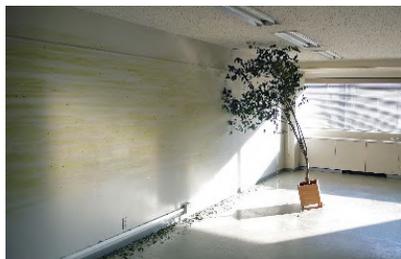
高架下はいわば駅から駅へと伸びる都市の余白です。地域に根指し、心地よいくらしづくり、住みたくなるまちづくりの実現を目指すデベロッパーである株式会社ジェイアール東日本都市開発と共同し、周辺市民の方々、アーティストの方々と一緒に、新たな体験の共有を提供いたします。

■プロジェクト一覧

プロジェクト名/アーティスト名	展示期間	会場
動く土 動く植物/村山修二郎	7月10日（土）～9月5日（日）	日比谷OKUROJI
Tokyo Biennale 2020 SOCIAL DIVE Artist-in-Residence Projects		
青海三丁目 地先の肖像/2.5 architects 森藤文華 + 葛沁芸	8月5日（木）～8月31日（火）	2K540
球体9/立花文穂	8月1日（日）～9月5日（日）	（仮称）旅籠町高架下ビル

【日比谷OKUROJI】

■ 村山修二郎「動く土 動く植物」



《植物の鼓動》2012、旧東京電機大学（東京）

花、草、実、根などを画材として直接紙にこすりつけて絵を描く「緑画（りょくが）」という絵画の制作では、地、植物、人がそれぞれの呼吸や脈打つ振動が伝わりあい、深い関係性が生まれます。鑑賞者は作品を通じ、都心の僅かな土で力強く生きる植物の存在に気付かされることでしょうか。会場内で制作された「緑画」は会期にわたって異なる表情を見せていきます。ゆっくりと呼吸をして植物との神聖な出会いを味わってみてください。

会期：2021年7月10日（土）～9月5日（日）

時間：11:00～19:00

会場：日比谷OKUROJI G14区画



村山修二郎（美術家）

東京生まれ。東京藝術大学大学院 美術研究科 博士後期課程美術専攻壁画修了 博士（美術）。植物に内在する初源的な力を抽出した作品制作、社会地域活動、ワークショップなどを様々な地域で行っている。主に、地域の植生をリサーチし読み解き、アートに見立て巡る「植巡り（しょくめぐり）」のプロジェクトや、植物（花・葉・実）を手で直接紙や壁に擦り付けて描く「緑画（りょくが/村山が考えた造語）」手法を考案し、唯一無二の絵画で表現している。

■ Tokyo Biennale 2020 SOCIAL DIVE Artist-in-Residence Projects

ケレム・オザン・バイラクター（トルコ）
ブスラ・トゥンチ（トルコ）



《Ruderal Garden》2019年、ベルリン、
Photo by Kerem Ozan Bayraktar

アーティスト・イン・レジデンス型の海外公募プログラム「Open Call for Artist-in-Residence Projects」を実施し、全世界91の国と地域からの応募が寄せられました。応募数1,535件の中から12組が選出され、東京ビエンナーレ2020/2021での参加を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により全作家が来日不可となりました。会期中は日比谷OKUROJIでの展示を予定していたケレム・オザン・バイラクター+ブスラ・トゥンチ（トルコ）をはじめ6組のアーティストの過去作の映像展示を行います。東京ビエンナーレソーシャルプロジェクトである、批評とメディアの実践プロジェクトRELATIONS (<https://relations-tokyo.com/>) 企画として、本アーティストとのリレートークもオンラインイベントで開催し、新常態におけるアートについて議論します。

ベドロ・カルネイロ・シルヴァ（ブラジル）
アーダラン・アラム（ドイツ&イラン）



《Free Seat - Encounter》2018年、フランクフルト門-ベルリン、
Photo by Ardalan Aram

展示

会期：2021年7月10日（土）～9月5日（日）

時間：11:00～19:00

会場：日比谷OKUROJI G15区画

イベント

名称：LIVE RELATINOS DAY1 & DAY2

日程：2021年7月17日（土）～18日（日）

会場：オンライン

ホズィーリス・ガヒーード
（ブラジル）



《Inciting public disturbance》
パウラ・ファラーコとの共同写真
プロジェクト、2018年、ベルリン、
Courtesy of the artists

マイケル・ホンブrow
（ニュージーランド）



《OmegaVille》2014年、Glasshouse Gallery（ニュー
ヨーク、アメリカ）、Photo by Michael Hornblow

クレイ・チェン（シンガポール）



《A Parade for the Paraders》2018年

ヒルダー・エリサ・ヨンシュドッティル
（アイスランド）



《Tacet: Extrinsic》Sinfonia Nordとの共演より 2019年、
Langholtskirkja（レイキャヴィーク、アイスランド）
courtesy of the artist

【2K540】

■ 2.5 architects 森藤文華 + 葛沁芸 「青海三丁目 地先の肖像」



《青海三丁目 地先の肖像》 青海三丁目地先の地図 S=1:1000、2020

東京のフロンティアである「青海3丁目地先」という、未だ地名も地番もない埋立地及び資源やゴミに焦点をあてたフィールドワークと体験型インスタレーションを通じて、埋立地の場所性を捉え、私たち一人一人に関わる問題として向き合うプロジェクトです。来場者は会場にて、作家が埋立地で採集したオブジェクトやゴミの利活用ワークショップの映像上映などのアーカイブ展示や、埋立地とモニターを通じてつながるアバターツアーが体験できます。東京の都市空間を体現する高架下商業施設の2K540にて、都市から生産されるゴミとその行き着く先である埋立地をつなぎ、オリンピックイヤーに変化を続ける東京の「風景」に対する新たな気づきを促します。

会期：2021年8月5日（木）～8月31日（火）

時間：11:00～19:00

会場：2K540 イベントスペース

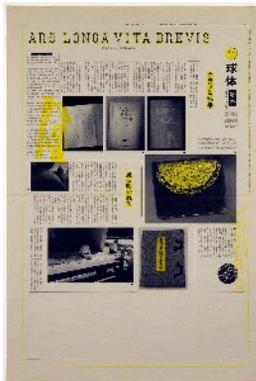


2.5 architects 森藤文華 + 葛沁芸

女性建築家2人による一級建築士事務所。二次元／三次元、自然と装飾などをテーマに建築のみならず、アート、プロダクトデザイン、インスタレーションと活動の場を広げている。これまでに「紡ぎ歌」（トロールの森、東京、2019年）、日仏建築文化交流展2018（ASJ TOKYO CELL、東京、2018年）、連作「Ophelias」（中之条ビエンナーレ、群馬、2015年）など多くの展覧会に出展。建築作品には十津川村 高森のいえ（2017年）、鶴原ビーチハウス（2017年）、一関 薫風農園リノベーション（2018年）などがある。

【(仮称)旅籠町高架下ビル】

■ 立花文穂「球体9」



《球体 號外》2014

製本業を営む家に生まれた立花は、古い紙や印刷物を用いて作品制作することで知られています。国内外での作家活動と並行して、自ら責任編集、デザインを手掛けるヴィジュアルマガジン『球体』を発行しています。東京ビエンナーレで立花は、総武線高架下に活版印刷機を運び込み、『球体』最新号となる9号を現地制作します。活版印刷の機械音と電車の振動が響き合う特異な空間で刷り出されていく紙片のみならず制作風景そのものが、立花が2007年より追求する「球体」の最新ビジョンを形づくっていきます。会期の経過とともに変化していくプロジェクトで、7/10

（土）～7/31（土）の期間は、ガラス扉の外から作業風景を見学可能です。

会期：2021年8月1日（日）～9月5日（日）

時間：11:00～18:00 ※月・火休

会場：(仮称)旅籠町高架下ビル

立花文穂 (アーティスト)

1968年、広島生まれ。文字・紙・本を素材、テーマに作品制作し、1995年、佐賀町エキジビット・スペース（東京）で、個展「MADE IN U.S.A.」をはじめ、2011年、ギンザ・グラフィック・ギャラリー（東京）での「デザイン 立花文穂」展など国内外で展覧会を行う。2007年より責任編集とデザインを自ら行う雑誌『球体』をはじめ。現在、8号まで刊行。『クララ洋裁研究所』（2000年）、『カタコト』（2014年）、『書体/shape of my shadow』（2018年）など数多くのアーティストブックを制作。著書に『かたちのみかた』（誠文堂新光社）、作品集に『立花文穂作品集 Leaves』（誠文堂新光社）がある。東京在住。



■会場位置図

○大丸有・日本橋・京橋・銀座エリア



【日比谷OKUROJI】

有楽町駅と新橋駅を結ぶ100年の歴史ある煉瓦アーチ高架橋を再生して生まれた商業空間です。300m続く高架下には、飲食、スイーツ、ファッション、バーなどこだわりの店舗が集まります。

<https://www.jrtk.jp/hibiya-okuroji/>



○神田・湯島・上野・蔵前エリア



【2K540】

2010年に秋葉原駅～御徒町駅の高架下に誕生した、「日本のものづくり」をテーマにした商業施設です。革、染め物、鉄、木など、様々なジャンルが約50店舗集まった、“ものづくりの街”です。<https://www.jrtk.jp/2k540/>



【(仮称)旅籠町高架下ビル】

総武線秋葉原駅～御茶ノ水駅の高架下、昌平橋交差点にある築38年の建物です。かつて神田旅籠町と呼ばれたこの場所から、新たな秋葉原を発信する拠点となるよう準備を進めております。

住所：東京都千代田区外神田一丁目4-3

■一般社団法人東京ビエンナーレ



東京ビエンナーレとは、“東京”のまちを舞台に“2年に1度”開催する国際芸術祭。世界中から幅広いジャンルの作家やクリエイターが東京のまちに集結し、まちに深く入り込み、地域住民の方々と一緒に作り上げていく新しいタイプの芸術祭です。千代田区、中央区、文京区、台東区の4区にまたがるエリアに点在した会場を巡り作品を体験する「展示体験」やスマートフォンをかざすと新たな風景が生まれるAR作品や、その場所ならではのストーリー動画・音声などを聴ける「+EX体験」をお楽しみいただけます。参加型イベントも多数。<https://tb2020.jp/>

■株式会社ジェイアール東日本都市開発



ジェイアール東日本都市開発は、JR東日本グループのデベロッパーとして、高架下・駅近接用地における、商業・オフィス・住宅などの開発及びショッピングセンター（駅ビル）の運営等を主たる事業として首都圏全域で事業展開を行っています。沿線（地域）住民が「住んでよかった」「働いてよかった」と感じられるまちづくり（まちづくり）の実現を目指し、弊社は高架下から広がるまちづくり、高架下からまちへ広がるまちづくりに取り組みます。<https://www.jrtk.jp/>

【東京ビエンナーレに関するお問合せ先】 一般社団法人 東京ビエンナーレ <https://tb2020.jp/>

TEL:03-5816-3220 FAX:03-5816-3221 E-Mail: pr@tokyobiennale.jp <担当：市川>

【日比谷OKUROJIに関するお問合せ先】 株式会社ジェイアール東日本都市開発 <https://www.jrtk.jp/hibiya-okuroji/>

TEL: 03-5334-1097 E-Mail: hibiya-okuroji@jrtk.co.jp <担当：開発事業本部 開発調査部 大場>

【2K540、(仮称)旅籠町高架下ビルに関するお問合せ先】 株式会社ジェイアール東日本都市開発 <https://www.jrtk.jp/2k540/>

TEL: 03-5334-1060 E-Mail: 2k540@jrtk.co.jp <担当：開発事業本部 開発一部 安部>